

こども健康学科
保育専攻

※長期履修の開講期はカリキュラム表にて確認して下さい。

卒業および資格取得に必要な単位

こども健康学科 保育専攻 (令和2年度入学生)

区分	卒業	保育士資格	幼稚園教諭2種免許	レクリエーション・インストラクター
一般科目	11 単位以上 ※ただし、必修5単位を含む。	11 単位以上 ※ただし、必修5単位を含む。	11 単位以上 ※ただし、必修5単位、英語科目2単位および「幼稚園教諭2種免許」欄の○印を含む。	11 単位以上 ※ただし、必修5単位を含む。
専門科目	必修科目 63 単位	必修科目 63 単位 選択科目 23単位以上 ※ただし「保育士資格」欄の○印及び、△印のうち1つは必修。	必修科目 63 単位 選択科目 27単位以上 ※ただし「幼稚園教諭2種免許」欄の○印は必修。	必修科目 63 単位 選択科目 5単位以上 ※ただし「レクリエーション・インストラクター資格」欄の○印は必修。
計	74 単位以上	97 単位以上	101 単位以上	79 単位以上

2018年度入学 こども健康学科 保育専攻 カリキュラム

科目 番号	授 業 科 目	種 別	単 位 数		週 時 間 数				卒 業	保 育 士	幼 2 種	レ ク イ	備 考
			必 修	選 択	1 年 次		2 年 次						
					前 期	後 期	前 期	後 期					
H1801	日 本 語 表 現	講義	2	2					計 6 単 位 以 上	1 1 単 位 以 上	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
H1802	日 本 国 憲 法	講義	2				2						
H1803	日 本 社 会 史	講義	2	2									
H1804	国 際 文 化	講義	2				2						
H1805	子 ども の 健 康 と 食 育	演習	1		2								
H1806	日 本 事 情	演習	1	2									
H1807	英 語 演 習 I	演習	1				2						
H1808	英 語 演 習 II	演習	1				2						
H1809	海 外 英 会 話 研 修	演習	2	□	□	□	□						
H1810	情 報 活 用 演 習 I	演習	1	2	(2)								
H1811	情 報 活 用 演 習 II	演習	1			2	(2)						
H1812	ス ポ ー ツ ・ 健 康 論	講義	1					2					
H1813	体 育 実 技	実技	1			2	2						
H1814	基 礎 セ ミ ナ ー	演習	1		2								
H1815	キ ャ リ ア デ ザ イ ン	講義	2			2							
	小 計	—	5	16	10	6+(2)	6+(2)	6	—	—	—	—	
H1816	保 育 原 理	講義	2	2					計 6 3 単 位 以 上	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			
H1817	教 育 原 理	講義	2	2									
H1818	児 童 家 庭 福 祉	講義	2	2									
H1819	社 会 福 祉	講義	2			2							
H1820	相 談 援 助	演習	2			2							
H1821	社 会 的 養 護	講義	2	2									
H1822	保 育 者 論	講義	2				2						
H1823	教 育 制 度 論	講義	2	2			2						
H1824	保 育 の 心 理 学	講義	2	2									
H1825	教 育 心 理 学	演習	2			2							
H1826	子 ども の 保 健 I	講義	2		2								
H1827	子 ども の 保 健 II	講義	2			2							
H1828	子 ども の 保 健 演 習	演習	2			2							
H1829	子 ども の 食 と 栄 養	演習	2				2						
H1830	家 庭 支 援 論	講義	2	2									
H1831	幼 児 教 育 方 法	講義	2	2			2						
H1832	カ リ キ ュ ラ ム 論	講義	2				2						
H1833	保 育 内 容 総 論	演習	2	2									
H1834	保 育 内 容 : 健 康	演習	2				2						
H1835	保 育 内 容 : 人 間 関 係	演習	2			2							
H1836	保 育 内 容 : 環 境	演習	2			2							
H1837	保 育 内 容 : 言 葉	演習	2	2									
H1838	保 育 内 容 : 表 現 の 理 解 と 方 法	演習	2			2							
H1839	保 育 内 容 : 造 形 表 現	演習	2	2		2							
H1840	保 育 内 容 : 音 楽 表 現	演習	2	2		2							
H1841	乳 児 保 育	演習	2		2								
H1842	障 が い 児 保 育	演習	2			2							
H1843	社 会 的 養 護 内 容	演習	2		2								
H1844	保 育 相 談 支 援	演習	2				2						
H1845	幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	講義	2	2			2						
H1846	教 育 相 談 (カウセリングを含む)	講義	2				2						
H1847	音 楽 I (基 礎 理 論)	演習	2	2									
H1848	音 楽 II (うたとピアノ)	演習	2		2								
H1849	音 楽 III (伴奏と弾き歌い)	演習	2			2							
H1850	音 楽 IV (ピアノと器楽)	演習	2				2						
H1851	図 画 工 作 I	演習	2	2									
H1852	図 画 工 作 II	演習	2				2						
H1853	子 ども 造 形	演習	2			2							
H1854	体 育 I	演習	2	2									
H1855	体 育 II	演習	2		2								
H1856	子 ども と 文 化	演習	2		2								
H1857	国 語	講義	2				2						
H1858	レ ク リ エ ー シ ョ ン 指 導	演習	2	集中									
H1859	レ ク リ エ ー シ ョ ン 実 習	実習	1		□	□	□						
H1860	保 育 実 習 I	実習	4		□								
H1861	保 育 実 習 指 導 I	演習	2		2	2							
H1862	保 育 実 習 II	実習	2		□								
H1863	保 育 実 習 指 導 II	演習	1		2								
H1864	保 育 実 習 III	実習	2		□								
H1865	保 育 実 習 指 導 III	演習	1		2								
H1866	教 育 実 習	実習	4	□	□								
H1867	教 育 実 習 指 導	演習	1	□	□								
H1868	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)	演習	2				2						
H1869	現 代 幼 児 演 習	演習	1		2								
H1870	幼 児 保 育 研 究	演習	1			2							
H1871	こ ども ま つ り	演習	1				2						
H1872	子 育 て 支 援 イ ン タ ー ン シ ョ ン I	演習	1	2									
H1873	子 育 て 支 援 イ ン タ ー ン シ ョ ン II	演習	1		□								
	小 計	—	63	48	24	26	28	24	—	—	—		
	合 計	—	68	64	34	32+(2)	34+(2)	30	—	—	—		

(注) △印の保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱと保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲのうちどちらが一つ選択必修。

2018年度入学 こども健康学科 保育専攻(長期履修) カリキュラム

科目番号	授業科目	種別	単位数	通 時 間 数						卒業	保育士	幼2種	レクイ	備考		
				必修	選択	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期						3年次 前期	3年次 後期
C1801	日本語表現	講義	2		2										午後開講	
C1802	日本国憲法	講義	2						2							
C1803	日本社会史	講義	2	2											午後開講	
C1804	国際文化	講義	2					2								
C1805	子どもの健康と食育	演習	1		2										午後開講	
C1806	日本事情	演習	1	2											留学生対象・午後開講	
C1807	英語演習Ⅰ	演習	1						2							
C1808	英語演習Ⅱ	演習	1							2						
C1809	海外英会話研修	演習	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					カナダ留学研修・シカゴロキア留学研修	
C1810	情報活用演習Ⅰ	演習	1	2	(2)											
C1811	情報活用演習Ⅱ	演習	1		2	(2)										
C1812	スポーツ・健康論	講義	1													
C1813	体育実技	実技	1						2	2						
C1814	基礎セミナー	演習	1	2												
C1815	キャリアデザイン	講義	2					2								
小 計			—	5	16	8	6+(2)	(2)	4	6	4	—	—	—	—	
保育の本質・目的に 関する科目	C1816	保育原理	講義	2	2											○
	C1817	教育原理	講義	2	2			2								○
	C1818	児童家庭福祉	講義	2	2											○
	C1819	社会福祉	講義	2	2											○
	C1820	相談援助	演習	2	2											○
	C1821	社会的養護	講義	2	2											○
	C1822	保育者論	講義	2							2					○
	C1823	教育制度論	講義	2	2						2					○
	C1824	保育の心理学	講義	2	2											○
	C1825	教育心理学	演習	2	2			2								○
	C1826	子どもの保健Ⅰ	講義	2	2											○
	C1827	子どもの保健Ⅱ	講義	2	2			2								○
C1828	子どもの保健演習	演習	2	2				2							○	
C1829	子どもの食と栄養	演習	2	2					2						○	
C1830	家庭支援論	講義	2	2											○	
C1831	幼児教育方法	講義	2	2			2								○	
C1832	カリキュラム論	講義	2	2						2					○	
C1833	保育内容総論	演習	2	2											○	
C1834	保育内容：健康	演習	2	2			2								○	
C1835	保育内容：人間関係	演習	2	2				2							○	
C1836	保育内容：環境	演習	2	2				2							○	
C1837	保育内容：言葉	演習	2	2			2								○	
C1838	保育内容：表現の理解と方法	演習	2	2					2						○	
C1839	保育内容：造形表現	演習	2	2	2										○	
C1840	保育内容：音楽表現	演習	2	2			2								○	
C1841	乳児保育	演習	2	2					2						○	
C1842	障がい児保育	演習	2	2			2								○	
C1843	社会的養護内容	演習	2	2					2						○	
C1844	保育相談支援	演習	2	2						2					○	
C1845	幼児理解の理論と方法	講義	2	2						2					○	
C1846	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2	2						2					○	
C1847	音楽Ⅰ(基礎理論)	演習	2	2	2										○	
C1848	音楽Ⅱ(うたとピアノ)	演習	2	2	2										○	
C1849	音楽Ⅲ(伴奏と弾き歌い)	演習	2	2				2							○	
C1850	音楽Ⅳ(ピアノと器楽)	演習	2	2					2						○	
C1851	園画工Ⅰ	演習	2	2											○	
C1852	園画工Ⅱ	演習	2	2						2					○	
C1853	子ども造形	演習	2	2						2					○	
C1854	体育Ⅰ	演習	2	2											○	
C1855	体育Ⅱ	演習	2	2			2								○	
C1856	子どもと文化	演習	2	2			2								○	
C1857	園語	講義	2	2				2							○	
C1858	レクリエーション指導	演習	2	2	集中										○ 集中講義	
C1859	レクリエーション実習	実習	1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					○	
C1860	保育実習Ⅰ	実習	4						<input type="checkbox"/>						○	
C1861	保育実習指導Ⅰ	演習	2					2	2						○	
C1862	保育実習Ⅱ	実習	2						<input type="checkbox"/>						△	
C1863	保育実習指導Ⅱ	演習	1						2						△	
C1864	保育実習Ⅲ	実習	2						<input type="checkbox"/>						△	
C1865	保育実習指導Ⅲ	演習	1						2						△	
C1866	教育実習	実習	4					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					○	
C1867	教育実習指導	演習	1					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					○	
C1868	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2							2					○	
C1869	現代幼児演習	演習	1		2											
C1870	幼児保育研究	演習	1						2							
C1871	こどもまつり	演習	1								2					
C1872	子育て支援インターンシップⅠ	演習	1	2											午後開講	
C1873	子育て支援インターンシップⅡ	演習	1	2											午後開講	
小 計			—	63	48	18	20	16	18	16	16	—	—	—	—	
合 計			—	68	64	26	26+(2)	16+(2)	22	22	20	—	—	—	—	

(注)△印の保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱと保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲのうちどちらか一つ選択必修。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1801	日 本 語 表 現	1 年次前期	2

この授業は、受講者が①日本語の読解・表現能力を向上させ②日本語と言語に関する幅広い知識を獲得する、という二つの目的を持っています。授業の中で具体的に取り組む内容は大きく以下の3点です。

- 1、さまざまな文章を読み、また書きながら、日本語文章表現の基礎知識、文章作成時の基礎的ルール等を学びます。
- 2、さまざまな熟語、同音異義語、故事成語等を学び、自らの読み書きに使用できる語彙を増やしていきます。
- 3、日本語の論理の特質について歴史的視点を含めて学び、より高度な日本語力を獲得するための基礎を身につけます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1802	日 本 国 憲 法	2 年次前期	2

日常生活を支えている最も基本的なルールに憲法があります。憲法は、私たち一人ひとりが人間として共生していくために必要な自由・権利、そしてそれらが脅かされないようにするための政治のルールと国家の基本的なしくみについて定めた原理であり、歴史の中で獲得されてきた成果です。この授業では、身近な話題や日々生起する社会問題を手がかりにして、日本国憲法の条文やそれに関する裁判の判決文に接することはもちろんのこと、平等や表現の自由、生存権、違憲審査制度などの日本国憲法の基本的な内容を理解し、テーマごとに討論を通じて、個人の自由・権利が保障されることの意味と、その際の国家の果たすべき役割について考察することを目標とします。憲法問題は社会の中で日々生起するので、受講に当たっては新聞をよく読むようにしてください。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1803	日 本 社 会 史	1 年次前期	2

本講義は、日本の歴史を主要な素材として学び、それを異文化世界と比較することで、私たちがもつさまざまな常識・認識を再検討することを目指すものです。本講義の具体的題材と目標は以下の三点です。

- 1、日本列島史の展開過程を東アジア諸地域との関連を含めて把握する。
- 2、日本史上における仕事・日常生活・家族意識といった諸問題を、東アジア諸国、ヨーロッパ・アフリカなどとの比較を含めて歴史的に検討し、日本社会の独自性と普遍性について考える第一歩とする。
- 3、近世・近代の日本社会について映像資料を用いて学び、現代社会が抱える諸問題について考える第一歩とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1804	国 際 文 化	2 年次後期	2

本講義では、世界の多種多様な文化的事象を文献資料と映像資料を使用して多面的に学んでいきます。具体的には、

1. 世界における多様化という潮流
2. 文化とは何か
3. 異文化の認識
4. 世界の価値観

といったテーマを中心に講義を行います。文化の多様性や現代社会のあり方を学ぶことを通じて、受講者が複眼的、客観的なものの見方を身につけることを目指します。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1805	子どもの健康と食育	1年次後期	1

本学の「こども健康学科」は、子どもの成長・発達を総合的に援助できる、豊かな知識とコミュニケーション能力を備えた人材の養成と日々の「食べる」営みを通して、子どもを含む幅広い世代の健康を支援できる人材の養成を目的としている。一言で表現すると「こどもを学ぶ」学科である。この授業は、学科の設立精神の基軸をなすもので、全学共通科目として位置付け、次代を担う若者に子どもの健やかな成長を支える「保育」と「食育」の基本を習得することをめざしている。

子どもは、毎日の保育所での食事を通して、人間的な信頼関係の基礎を築いていく。豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べる体験を通して、食への関心を育み、食を営む力の基礎を培う「食育」を実践していくことが重要である。「食育」を実践するには、保育士、栄養士（調理員）、の連携が不可欠である。そのためには「食育」の共通理解が必要である。この科目では、「食育」の基礎を学ぶとともに、自らも豊かな人間性を育てていくことを目的とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1806	日 本 事 情	1年次前期	1

この講義は、外国人留学生を対象とし、日本語読解能力・作文能力の向上と、日本社会・文化への理解の深化を目的とします。本講義の主要目的は以下のようなものです。

- 1、新聞・週刊誌などを利用して日本語の読解力を高める。
- 2、日本語作文の提出により、日本語での文章作成に慣れ、また多様な文章表現を身につける。
- 3、日本の地理の基礎を学び、おおよその地勢・気候などについて説明できるようになる。
- 4、日本の歴史の基礎を学び、日本人が常識的に知っている歴史的事件・人物などについて説明できるようになる。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1807	英 語 演 習 I	2 年次前期	1

「グローバル化」といわれる現代において、物や人、情報の行き来に壁はなくなりつつあります。幼稚園、保育園等で外国人の子供を見ることももはや珍しくありません。

この授業では、基礎的な英文法の復習、リスニングの練習、英作文の練習などをまんべんなく行いながら、英語の基礎を固めることを目標にします。

授業では、受講者の積極的な参加が求められます。毎回の授業で全員が必ず英語で発言しなければならないことを覚悟した上で受講してください。また、演習形式の授業なので、テキストは1人1冊必ず購入し、毎回テキストと辞書を必ず持参してください。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1808	英 語 演 習 II	2 年次後期	1

この授業では、英語演習 I で固めた基礎力をさらに強化していくことを目指します。英文法の問題演習、リスニングの練習、英作文の練習などをまんべんなく行いながら、日常英会話を習得します。授業のところで、英語のポップソングや童謡の聞き取り、英語の映画の台詞の聞き取りと説明なども行っていきます。

授業では、受講者の積極的な参加が求められます。毎回の授業で全員が必ず英語で発言しなければならないことを覚悟した上で受講してください。また、演習形式の授業なので、テキストは1人1冊必ず購入し、毎回テキストと辞書を必ず持参してください。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1809	海外英会話研修	1年次前期・後期 2年次前期・後期	2

前期の授業は、夏期にカナダの姉妹校セルカーク大学で行われる語学研修への参加者を対象に開講するものです。

後期の授業は、春期にミクロネシア短期大学で行われる語学研修への参加者を対象に開講するものです。

本学の授業では、渡航手続きやカナダやミクロネシアでの生活について詳しく説明し、現地に必要な英会話の基礎を学びます。カナダではホームステイを行い、ホストファミリーとともに生活します。ミクロネシアでは寮生活を体験します。研修先の授業は、英語が苦手な人でも理解できるように工夫されていますし、学生時代の異文化体験はまたとない自己変革のきっかけになります。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1810	情報活用演習Ⅰ	1年次前期	1

保育者・教育者として、情報化した社会に必要な情報活用能力の習得を目指す。コンピュータは現代人にとって必須の技能の一つであり、将来においても重要性は増すと考えられる。自身がコンピュータの活用方法を習得するだけでなく、指導的な立場として、あるいは保護者や地域とのコミュニケーションの手段として保育・教育活動に生かせる能力の獲得を目指して、オペレーティング システムの基礎、電子メールの送受信方法、インターネット上にある情報の利用方法、情報倫理、各種アプリケーション ソフトウェアの活用法などを学ぶ。

また、現在のコンピュータを利用する上で避けては通れないタイピング技術の向上も目指す。情報活用演習Ⅱにおいても必要な技能を学ぶため、先に情報活用演習Ⅰを履修することが望ましい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1811	情 報 活 用 演 習 Ⅱ	1 年次後期	1

前期に開講された情報活用演習Ⅰに引き続き、保育者・教育者として、情報化した社会に必要な情報活用能力の習得を目指す。この授業では、電子メール、ウェブブラウザ、ワープロなどの使用方法に加えて、表計算ソフトウェアの簡単な操作方法、表計算の手法、関数の使用方法、グラフの作成方法、データの簡単な分析方法などを学ぶ。更に表計算ソフトウェアの機能を活用して簡単な論理構造を構築し、定型作業などの自動化と効率化の方法を学ぶ。

情報活用演習Ⅰから引き続いて、タイピング技術の向上も目指す。前期に開講される情報活用演習Ⅰにおいて、この授業に必要な技能を学ぶため、情報活用演習Ⅰが履修済みであることが望ましい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1812	ス ポ ー ツ ・ 健 康 論	2 年次後期	1

人間生活の基本である健康・体力に対する認識を深めるとともに、スポーツを生涯にわたって個人の生活の必須部分、社会の中に生きる人間の教育、そして楽しさを通じた健康づくりとして位置づけていくことが重要と考えます。

本講義では、日常生活において自主的に身体運動を取り入れて実施するようになるための科学的根拠に基づいた運動処方、スポーツを楽しく行なうための技術・体力・身体運動の仕組み、そして健康のために役立つスポーツ科学などについて理解を深めていきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1813	体 育 実 技	2年次前期 2年次後期(前半)	1

体育実技の目的は、いろいろな運動の楽しさや喜びを知り、生涯を通じてスポーツを継続し、健康を維持増進していくための基礎を養うことです。授業では、バレーボールやバドミントンを開講します。

※2年前期と2年後期（前半）の両方を履修して単位が与えられます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1814	基 礎 セ ミ ナ ー	1年次前期	1

大学生活は、高校までの生活とは大きく異なり、主体的な学習が望まれ、個人の責任も重い。このため、入学後にとまどいを感じたり、友人との人間関係に悩む新生がいるといわれている。

この授業は、新生が高校生から大学生へスムーズに移行し、大学生活になじむようサポートする科目である。大学の授業を受けるにあたって必要なスタディ・スキルや、豊かで自立した学生生活ができるよう、健康な生活や消費者としての基礎知識を学ぶ。

また、4月下旬のオリエンテーションセミナーでは、学年を超えた学生と関わり、教職員と触れ合うことで新たな人間関係を築き、社会人に必要とされる総合的人間力を養う。さらに、文章を書くこと・読むことを中心に、日本語のスキルアップを図る。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1815	キャリアデザイン	1年次後期	2

業種職種を問わず、本学を卒業する学生のすべてが確かな職業意識をもって就職し、職業人となってからも未来への希望を持続できるよう、社会人基礎力の修得を目指します。

まず、キャリアデザインとは何か、その意味とデザインすることの意義を学びます。それらを土台として自己分析し、自分自身の見極めを行います。

また、専門職種に関わる各界のプロフェッショナル及び専門職種に就いている本学の卒業生等々をお招きし、実際に働いている方々と緊張感もちながらも親しく接する機会を作ります。これらの体験を通して視野を広げ短大生としての見識をもって行動すべく自覚を促します。

学生の目を社会人としての将来に向けるよう、社会人のマナーについても学び、実践できるよう指導します。全専攻共通必修科目です。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1816	保 育 原 理	1年次前期	2

少子化問題や地域の子育て支援、幼保一元化、幼保小連携といった今日の保育に関する話題は、社会情勢の急速な変化と連動する形で、喫緊に解決すべき課題とされている。しかし、そうした保育に関する今日的な諸問題に取り組むためには、何よりもまず、保育の原理に関する体系的な理解が求められる。

こうしたことを念頭に置きながら、本講義は、さまざまな角度から保育を見つめることによって保育に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目的とする。

まず、乳児から幼児までの成長・発達に関する基本的な知識の習得を図り、それを踏まえた上で保育を行うために必要な資質や態度などの原理的側面について学ぶ。そして、保育が断片的活動の集合でないという認識、即ち保育の体系的な仕組みについて考察する態度の育成を目指す。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1817	教 育 原 理	2 年次前期	2

「教育」は万人に関わることであり、誰もが身近に感じ、語り、自分なりの見解を持ち得る領域です。しかし、自己の体験のみに根ざした教育論に固執すると、世論や風評に流されたりむやみに反発したりといった無批判な態度に陥りやすくなります。そうならないためには、「教育」の営みを科学的・実践的に探究する態度を身につけ、「教育」の本質・目的を理解することが求められます。そこで、本講義では、自己の体験・経験を起点にした「教育」の問い直しを出発点として、「教育」の本質に迫ることを試みます。受講生の皆さんには、これまで受けてきた「教育」の営みを反省的にとらえ直し、保育や幼児教育を含めた自らの教育体験を客観的な立場から見つめることによって、「教育」の原理的側面について考えてもらいます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1818	児 童 家 庭 福 祉	1 年次前期	2

子どもは大人のミニチュアではないといわれている。その言葉には大人の子どもの対する深い願いや期待が含まれている。わが国は未曾有の少子社会となっており、国をあげて子どもが健やかに生まれ育つ環境作りを行ってきた。しかし、今日の子どもの取り巻く社会状況には、依然として多くの問題があり、子どもにとって必ずしも好ましい環境とはいえない。

授業では、このような状況を確認しながら、その中で次代を担う子どもが社会の中でどのように大切にされてきたか、国、地方公共団体及びその他の団体がどのような仕組みを作って、どのような役割を負ってきたか、現在どのような課題に直面しているかを学ぶ。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1819	社 会 福 祉	1 年次後期	2

社会福祉の発展を、欧米および日本の歴史をふりかえりつつ、その中で指導的立場を担った人々、啓発的・実践的活動をした人々に焦点をあてる。そのことによって、現代において社会福祉がどういう意義や意味を持つのかを理解する糸口をつかむ。さらに、社会福祉の各種事業とサービス内容の特質を概観し、社会福祉の具体的状況を理解する。また、社会福祉におけるサービスあるいは援助については、社会福祉制度の複雑なくみの中で進められているので、これらの制度についての基本的な考え方を十分理解しながら、新しい制度についても解説する。

社会福祉の各分野を担う人々は、その職種、立場、活動分野によって種々様々であるが、「福祉は人なり」といわれるように、福祉を担う人々の心構え、想い、動き方が非常に大切であるので、具体的な情報や実態をふまえて伝えていきたい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1820	相 談 援 助	1 年次後期	2

保育所などには、経済的にも家庭的にも安定し、子どもに深い愛情を持ち、子育てに意欲的な家庭で暮らす子どもだけが通所してくるわけでは無い。貧困、片親、虐待、夫婦間暴力、育児放棄など様々な問題を持つ子どもたちが通所してくる。相談援助の科目では、こうした社会的な問題を抱えた子どもたちの家族への支援方法についてソーシャルワークの技法を中心に学ぶ。

この講義では、ソーシャルワークの基本的な考え方や保育者がソーシャルワークを学ぶことの意義について最初に学ぶ。次に、具体的な援助技術としてケースワークやグループワークについてその理論と技術について詳しく学習する。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1821	社 会 的 養 護	1 年次後期	2

家庭の養育環境が不適切な児童や心身に障害を受けた児童については、家庭と共に社会が援助する。このような問題を抱えた児童の養育の在り方は、一人ひとりのニーズによって異なる。授業では、実際的な具体例を通じて養護の本質を追求する。

養護は本来家庭や地域社会が児童の健全な育ちを支える基盤であるが、これのあるべき状態が種々の要因によって不確かなものになっている。育ち、育てられる児童の状態も不安定になり、そこから生活態度や行動に様々な問題が出ている。授業を通じて私達は児童の外側の育成条件(環境など)と児童の内側の心の問題との両方に目を向けて養護のあり方を考える必要があることを認識してほしい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1822	保 育 者 論	2 年次後期	2

本講義の目的は、保育者という仕事(保育職)の意義とその内容(職務内容)、保育者の役割、また、保育者に必要とされる資質や力量について学ぶ。

特に、「保育者の専門性」ということが昨今ではよく言われますが、そもそも保育者の“専門性”とはどのようなことなのか、また、それはどのようにして身につけることができるのか、といったことをこの授業で学びたいと思う。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1823	教 育 制 度 論	2 年次前期	2

“制度”とは、簡単に言えば“仕組み”や“決まり”だと言える。そして「教育」におけるあらゆる理想や目標・目的などは、“仕組み”・“決まり”＝“制度”として機能しなければ実現することはない。

このことを念頭に置きながら、この講義では、教育制度の歴史や教育法規、さらには諸外国との学校制度との比較を通して、日本の教育制度に関する基本的な知識の習得を目的とする。そして、今日における日本の教育制度の課題に対して積極的に取り組む姿勢を、学生の皆さんには身につけてもらいたい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1824	保 育 の 心 理 学	1 年次前期	2

発達心理学の主要な理論・研究を概説する。各発達期における特徴を概観したうえで、発達の遅れやゆがみなど発達的な問題にも触れていきたい。また、発達の共通的特長と個人差について、「発達心理学的視点」、「臨床心理学的視点」、「生物学的視点」の3つの視点を相互に関連づけながら、総合的に捉えることを試みる。人間が発達していくことの素晴らしさと大変さを同時に伝えられたらと考えている。

この授業では、発達心理学の基礎的な知見や概念を習得すると同時に、人間の発達の問題を見たり考えたりする時の視点を自分たちなりに持てるようになることを目標とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1825	教 育 心 理 学	2 年次前期	2

教育活動を進めていくうえで重要な問題となる、発達、学習、人格、適応、障害児指導などについて、心理学的な見方や考え方を概説するとともに、そうした心理学的な見方、考え方と教育実践とのかかわりについて検討する。心理学の理論として頭で理解するのみにとどまらず、自らの心で感じ、体験する授業の実践を目指す。また、「当日ブリーフレポート」を導入し、学生の方たちの講義への積極的参加と理解を促進する。

子どもの発達と学習に関わる際に、自ら問題意識を持ち、自分自身の視点を持てるようになることを目標とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1826	子 ども の 保 健 I	1 年次後期	2

子どもの保健とは、子どもを対象にした保健学であり、子どもの健康を守ること、健康を高めることを考える学問である。

成長・発達途上の小児の健康は、日々の生活、環境とも大きく関わり、日常生活の様々な場面においても、将来にわたる健康を守るためには子どもの全体像を把握する必要がある。

子どもの保健 I では、「健康な子どもとは」「小児各期の特徴と発達」「基本的生活習慣の自立支援」を学び、子どもの特徴を網羅することを目標とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1827	子 ども の 保 健 II	2 年次前期	2

この講義では、まず、子どもの健康状態観察法を学ぶ。「科学」研究の基本は「観察」であるため、できるだけ主観を排除した洞察力・注意力・分析力を身に付ける。

また、子ども特有の伝染病や予防接種、病気について学び、看護の要点を身に付ける。

子どもの事故は、発達段階や行動と深いかかわりがあり、したがって、子どものための安全な状態をどのようにして作り出していくか考え、事故防止や安全教育、そして応急処置について学ぶ。

さらに、子どもを取り巻く環境、生活の変化に伴う諸問題について考え、社会福祉の現状を把握する。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1828	子 ども の 保 健 演 習	2 年次前期	2

現在、女性を取り巻く環境には、核家族化や地域社会の崩壊をはじめとして、様々な変化が起きている。そして、このような変化は、産後わが子を抱くまで育児を体験したことがない母親が40%、赤ちゃんに触れたことさえない母親が16%もいるという現状をもたらした。

乳幼児保育に関わる者にとって、小児保健の知識や技術は、欠かすことのできないものである。したがって、この子どもの保健演習では、子どもの保健 I II で学んだ知識を基に、保育の現場で実践できる技術を習得するものとする。

授業内容は、子どもの観察、計測など健康管理に関する基礎知識、授乳沐浴（入浴）、および排泄の援助などの養護に関する技術、病気や事故に関する観察点と基礎的な看護技術、および救急処置の方法などを演習を通して学ぶ。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1829	子どもの食と栄養	2年次後期	2

人は「食べること」で生存し、健康を維持、増進している。加えて小児期における「食べること」は、小児期における特性である発育・発達に大きな影響を与える。生まれたては未熟であった摂食、消化、代謝機能は成熟に向かって大きく変化（成長）する。その変化を的確に捉え、乳汁、離乳食、幼児食と栄養法を変化させていくことが健やかな成長につながる。また、小児期は食習慣（生活）の基礎を形成する時期である。食事は生きるための栄養を得るための場（手段）としてだけでなく、みんなで楽しく食事をすることで心の栄養をとる場となる。

このように大切な小児期の「食」を委ねられる保育者として、各ライフステージごとの発育、発達段階に応じた食事計画の立案、調理に必要な技術の修得を軸に、現代の子どもの食に関する傾向、問題点を知り、保育者としての具体的な関わり方を考える。また、行事、季節の食事作りを通して食文化を学び、作ること、食べることの楽しさを体験する。さらに、病児やアレルギーへの具体的な対応についても学ぶ。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1830	家庭支援論	1年次後期	2

保育所及び児童福祉施設がもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを学びます。また、各家庭のニーズに応じた多様な支援対策を提供すべく、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携についても理解をします。保育士を目指す人は、この授業を通してこれから援助者となるべく自分がどうあるとよいかを学ぶ場になることを願っています。

授業内容は①家族の機能と役割 ②現代家族の抱える問題と子育て ③子育て家庭と地域の関係 ④子育て支援における関係機関との連携 ⑤家族援助の基本 ⑥特別な配慮を要する家庭への家族援助 ⑦保育所による家族援助の実際等、これらを中心に講義し、ビデオ・実践事例をもとに家族援助の実際の理解を深めていく予定です。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1831	幼 児 教 育 方 法	2 年次後期	2

保育は子どもを理解することから始まる。理解されていないと明日の保育を組み立てることができない。では「子どもを理解する」ためには具体的にどのような力が保育者に求められるのであろうか。幼児期の子どもの発達の特徴を理解するといった、発達心理学的視点はもちろん必要である。しかし、保育実践をする上で保育者が理解しておくべき点は、発達の特徴だけではない。保育対象となる子どもの発達理解を基盤に、自分自身の保育観・子ども観を反映させることが不可欠となる。幼児理解とは、発達心理学的視点と保育者の保育観・子ども観から成り立つものである。また子どもを理解した内容は、明日の保育のための省察や、保護者・職員への問題提起となる。したがって、自分ひとりが理解して満足するだけでなく、その内容を適切な方法でまとめる力や他者に伝える力も求められる。

この講義では、理論をおさえながら実践例もふんだんに提供し、幼児理解と理解した内容のまとめ方（記録の残し方、次の保育への生かし方）・伝達の仕方について議論し、実践に生かすことができる力を養うことを目的とする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1832	カ リ キ ュ ラ ム 論	2 年次後期	2

この授業では、幼稚園・保育所の幼児教育についてのカリキュラムを総括的に学びます。幼児教育のカリキュラムは入園から修了までの時間と空間におけるすべてを通して行われる幼児の生活が、全人的に幼児を円満に発達するよう保育者が援助する基本となるものです。カリキュラムの意義、カリキュラム編成の基本、指導計画作成の手順、指導計画の展開方法などを順を追って、幼児教育の本質に根ざしながらの学びを行う。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1833	保 育 内 容 総 論	1 年次前期	2

講義では始めに、小学校での「学習」と比較しながら、「保育内容」という概念についての理解を促す。その上で保育を実践する際に必ずふまえないければならない 5 つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の概要について学習する。例えば保育で「絵画」の活動計画を立てたとする。この場合、主に意識される領域は「表現」ではあるが、保育における活動と領域は 1 対 1 対応ではない。友だちと話をしながら絵を描くのであれば「人間関係」や「言葉」といった領域も含まれる。このように保育は複数の領域が絡み合って成立するものである。この点について正しく理解することができるようにする。

講義は理論だけではなく、保育現場で領域がどのように活動に組み込まれているのか、実際に保育者が立てた指導計画（日案）や、計画に基づいて行われた保育場面の映像を視聴しながら、理解を深める。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1834	保 育 内 容 : 健 康	2 年次後期	2

人が健康で安全な生活を営む基盤は、安全な環境の下で愛情に支えられながら、心と体を十分に働かせて幼児期を過ごすことによって培われる。

本授業では、子どもの健康を守り育てるために必要な事柄について理解するとともに、それらを保育の実践に活用するための知識と態度、技能を身につける。

具体的には、乳幼児の身体の発育、運動機能の発達、精神機能の発達、基本的生活習慣の形成などの基礎的事項を学習し、さらに運動指導や安全教育のあり方について学習する。

さらに、乳幼児期の健全な成長・発達を阻害するさまざまな健康問題に（メディアが子どもの心身に与える影響など）についても広く取り上げ、子どもの健康について考察する。

授業では、ビデオ教材の活用・グループワークなどを通じて積極的に意見交換を行い、学生が自ら考え深められるようにしたい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1835	保 育 内 容 : 人 間 関 係	1 年次後期	2

人は誰もが、生きよう、伸びようとする力をもって生まれてきます。そして、人は一人だけでは生きていけません。私たちは、人とのかかわりあい、お互いに豊かな感情交流しながら生きています。幼児期は、真に人とのかかわる力の土台を作っていく時期です。

この授業では、「真に人とのかかわる力の土台」とは何なのか、子どもを主体としてとらえた保育の実践記録を手がかりにしながら学び、保育者として考えなければならない視点を示していきます。

人とかかわりが現代社会の中で、どのような状況になっているのか、又、そのことが子どもの健やかな育ちにどう影響を与えているのか、という視野をもって授業を進めていきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1836	保 育 内 容 : 環 境	1 年次前期	2

子どもは園内外で、遊びを通して具体的な体験を積み重ねる中で、様々な対象に刺激を受け、興味や関心を抱き、活動したりする。またそれを自分の生活に取り入れて大切にしたりする。そうした身近な環境とのかかわりに意欲をもち、物の性質や数量などに対する感覚を豊かに養うためには、保育者は園児を適切に援助することが必要である。それには、幼児期の個々の発達に即して、子どもの疑問を解決し、どのような活動の発展が考えられるかを保育者自身が見通していかなければならない。

ここでは、子どもが身近な環境とかかわる活動にはどのようなものがあり、それが幼児の発達とどのような関係があるかなど、幼児の望ましい発達を「環境」の面から援助できるように学ぶ。内容としては(1)保育における環境の役割、(2)領域「環境」のねらいと内容、(3)領域「環境」の指導計画と展開、(4)教材研究「木の葉・木の実で遊ぶ、紙を使ったおもちゃ」(5)幼児期の発達と安全指導、など。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1837	保 育 内 容 : 言 葉	1 年次前期	2

文字で表せるものだけがことばではないが、思考やコミュニケーションに必要なことばは、学ばなければ獲得することはできない。乳幼児期は言葉の獲得においては特に大切な時期で、この時期にことばの有効性や、ことばを享受する幸せを体験することは、将来にわたる精神的基礎となる。人格形成の基礎を培う重要な時期であり、その文化的環境や体験は、成長発達や人間としての生き方に大きな影響を与える。保育者はそれを自覚し、物理的な環境を整えるだけでなく、自らもより良い人的環境となる努力が必要である。そのための基礎知識を学び、保育に活かす力を蓄える科目であり、ことばの発達過程や保育事例、環境と援助のあり方を具体的な実例を絡めて学ぶ。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1838	保 育 内 容 : 表 現 の 理 解 と 方 法	2 年次前期	2

「表現」は、自分の気持ち、自分の感じたこと、考えたことを外に表す営みです。しかし、意図しない気持ちの表れ「表出」においても、周囲の人たちに受け止めてもらいながら幼児の「表出」は育っていきます。「表現」を豊かにしていくには、「感性」を豊かに育くむことが大切といわれています。幼児の「表現」について論じながら、幼児の「感性」の育成の中で、音、色、形、手ざわり、動き、リズム感、言葉などを通して、幼児が感じ考えたことを自発的に豊かに表現する大切さを学んでいきます。また、保育者が幼児の表現をしっかり受け止めるには、保育者自身も感性が豊かであること、しなやかな心をもって幼児に応答していくことが大切です。そのために、音楽的表現、造形的表現、身体的表現などを実践していきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1839	保育内容：造形表現	1年次後期	2

幼児が無心に描いたり、ものを造ったりする行為は、人格形成上きわめて重要だといわれている。この授業では、幼児期における造形教育の果たす役割と必要性について、幼児の発達段階を踏まえながら論じていく。そして、幼児の使いやすい多くの素材や用具をもとに、製作の意図、目標、展開、反省等のあり方を理解し、幼児の創作活動の実際を学び、造形表現指導のあり方を習得する。

幼児にとって望ましい保育者の資質一つには、幼児とともに感動し、活動していく心意気も大切である。そのために、様々な造形的表現の課題や造形技法にも実際に取り組んでいく。そして、将来、明るく元気に前向きに造形活動の指導、支援に取り組める保育者を目指す。何よりも、すべての子どもたちの心に立ち向かえる心意気を育ててほしい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1840	保育内容：音楽表現	1年次後期	2

本科目では、保育の領域のひとつである「表現」分野のうち、「音楽による表現」について学習します。幼児の自然な音楽表現を支え、理解し、さらに幼児が豊かな音楽的表現力を身につけることができるような援助や指導の方法を学びます。また、そのためにはまず保育者自身が豊かな表現力を持つことが不可欠であることから、同時に個々の表現力を高めることも目標とします。

具体的には、さまざまな音楽表現を学習し、グループ活動をおこなって発表します。ここでは保育者に必要な協調性、協働する力も問われます。ダルクローズのリトミックの理論と実践、リズムによる表現の実践、手遊びや体を使った歌遊びの制作、簡易打楽器の奏法など、多様な音楽表現について理解し、実践する力を養い、まとめとして、総合的な芸術表現である、幼児のための小規模オペレッタを制作し、発表することで、保育の現場での音楽実践力を獲得していきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1841	乳 児 保 育	1 年次後期	2

現在、日本の保育所数は約 23000 ヲ所あり、約 200 万人の子どもたちが生活している。

しかし、保育所に入りたくても入れない待機児童が、約 2 万 3 千人もいるとも言われているのが実態である。とりわけ乳児保育の要望が高くなり、生後 57 日目から入所する産休明け保育や延長保育など多様な保育要求が求められている。

現在低年齢児保育は、保育所保育の大きな部分を占めてきており、保育士の誰もが 3 歳未満児保育にかかわるのが実体化しているといつてよいであろう。

この講義では、人間の生きる土台づくりともいえる乳児期（0～2 歳）について、それぞれの発達理解と保育の内容・方法について明らかにしたい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1842	障 が い 児 保 育	2 年次前期	2

保育の現場で出会う「障がい」を抱える子どもたちへの関わり方を学ぶ。その子どもにとっての「普通・当たり前」を理解した上で、自分ならどのような支援ができるのかを考えていく科目として欲しい。

障がいのある子ども・その保護者と関わる際、適切な支援や指導方法を提供することが必要である。そのため、保育専門職として必要な正しい知識をしっかりと授業内で学修していく。いずれその子が自立して、社会生活が営めるような支援方法も視野に入れた上で、グループワークやロールプレイングを通じ、学生同士からも学び合う場としたい。

最終的には自分の「普通・当たり前」という視点が、どのように変化していったかをきちんと言語化できるよう、自分に対しても理解を深められるようにしていく。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1843	社会的養護内容	1年次後期	2

子育てが家庭で行われない場合、子どもたちはどこで、誰と出会い、どのように成長していくのか？入所施設はそこで生活していく子どもにとってどうあるべきか？

授業では主に入所型児童福祉施設での日常生活を理解し、職員としての援助のあり方を考えていく。自分ならどうするか、自分には何ができるか、という事も意識する演習としていきたい。一人ひとり違う子どもたちをありのまま尊重することの難しさや、職員としての自分自身も尊重していくことの大切さも認識していく。児童福祉法に定義されている「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」という部分を正しく理解していく科目としたい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1844	保育相談支援	2年次後期	2

保育相談支援とは、保育所などの児童福祉施設において保育士が子どもの保護者に対して行う子育て支援活動の一つである。その活動は、支援の対象となる子どもや保護者の状況によって内容が異なっており、用いられる技術も多様である。

今日の日本社会では、保育者がこのような支援の実際を身につける必要性は、家庭や地域における子育て能力が低下する中でますます高まっており、授業では、こうした社会の実態をふまえ、児童虐待等の不適切な子育てを行う保護者、障がいのある子どもの保護者および育児不安を抱える保護者などを取り上げて、そこに展開されている支援活動のあらましを概観する。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1845	幼児理解の理論と方法	2 年次後期	2

幼児一人ひとりの姿を適切に捉えることは、保育者が保育をするにあたって基本となる作業である。保育者には自らが捉えた幼児の姿から、その幼児の内面に何が起こっているのかを理解した上で、望ましい指導を行なうことが求められる。そこでこの講義ではまず、「幼児を理解するとはどういったことなのか」という点について学習する。理解の仕方・あり方を習得した上で、発達段階や保育内容と照らし合わせながら、よりよい援助の方法を身に付けることを目標とする。

講義は適宜、事例や保育エピソードを紹介し、受講生が具体的に幼児の姿が理解できるようにする。保育現場に出て行く直前の講義であるので、理解力に加えて実践力も養っていきたいと考えている。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1846	教 育 相 談 (カウンセリングを含む)	2 年次後期	2

幼児教育の現場で生かせる教育相談の内容と意義について、基本的な事項を学ぶ。教育相談は、教師と幼児との信頼関係の構築、幼児の情緒安定への援助、心身の調和のとれた発達と一人ひとりの特性に応じた発達への援助などに寄与する営みである。一般に、教育の営みは、教科指導と生活指導の二側面を持つが、教育相談は生活指導の一分野と考えられる。したがって、幼児の人格あるいは精神的健康や身体的調和をより一層望ましい方向へという意義と適応上の問題や心理的な障害への対応という意義の両方が考えられる。これらの意義を理解するために、援助技術や手法等も学びながら、事例的な考察をとり入れる。また、幼児の心身の成長・発達や人格形成に大きな影響を与えるとされる親のあり方について、教師はどう関わったらよいか、原理的な視点をふまえたうえでの援助方法等について学ぶこともねらいとする。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1847	音 楽 I (基 礎 理 論)	1 年次前期	2

音楽は、子どもの成長、発達にとって不可欠です。幼児期は音楽教育において大切な時期であり、保育者が幼児に与える影響は大きく、保育者自身が音楽的表現に必要な技能（ピアノ、歌唱、音楽理論）を身につけ、音楽性を高めた上で、自身も音楽を楽しみ、子どもの音楽的表現に共感できる姿勢が必要です。

本科目では、音楽を理解し、演奏するために必要な基礎的な技能を習得します。具体的には、基本的な音楽の理論、それを踏まえたうえでの初歩的なピアノ曲の演奏、子どもの歌の歌唱等を学習します。音楽をより深く理解し、表現するために必要な基礎を確実に固め、次のステップである「音楽Ⅱ」以降への基盤としていきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1848	音 楽 Ⅱ (う た と ピ ア ノ)	1 年次後期	2

保育の現場で、幼児が潜在的にもっている豊かな音楽的表現力を導き出すためには、保育者の音楽技能が一定のレベルに達していることが必要です。音楽の技能を培うには、音楽理論の習得に加えて、歌唱やピアノの実技を学習し、演奏のテクニックを身につけることが大切です。

本科目では、「音楽Ⅰ」で学習した基礎的な能力をもとに、まず、ピアノ演奏技術の向上を目指します。ピアノの演奏技能は、それまでの音楽経験によって当然ながら入学時のレベルに幅があります。そのため個々の学生の進捗差を確認し、進捗に応じた指導をおこないます。これにより、保育の現場で自信をもって音楽的な援助を行うために最低限身につけておくべき基礎技術の習得を目標とします。また、「音楽Ⅰ」で学んだ歌唱表現についても引き続き学び、さらなる技能や表現力の習得を目指します。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1849	音楽Ⅲ(伴奏と弾き歌い)	2年次前期	2

本科目では、1年次に「音楽Ⅱ」で習得したピアノ演奏の技術をさらに向上させるとともに、保育の現場で有効な実践的な応用技術の獲得を目指します。

ピアノ実技では、独奏曲だけでなく、子どもの動きや遊びを援助するための曲を学習します。なるべく多くの曲に接し、知ることで、音楽に対する興味や関心を高め、技術と創造性を向上させて多彩で豊かな音楽的表現力を身につけていきます。また、保育現場での様々な場面を想定し、保育の実践で使用される教材を用いて伴奏付けや弾き歌いを学習することにより、さらなる保育実践力を養います。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1850	音楽Ⅳ(ピアノと器楽)	2年次後期	2

個々のレベルに応じた指導により、ピアノの演奏技術、弾き歌い、伴奏付けなど、さらなる実践的な応用技術の向上を目指し、保育に必要な音楽の実践力を身につけます。

また、ピアノ以外の幼児が演奏できる楽器について、扱い方や奏法を学び、スコア（総譜）の読み方を習得して、アンサンブル、合奏の方法を学習します。

このような学習により、保育現場において、子どもたちが創造性あふれる音楽的表現活動を自然に展開することができるように援助する力を獲得します。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1851	図 画 工 作 I	1 年次前期	2

この授業は、美術・造形関連の基礎技能科目であり、将来、保育者としての美術・造形関連の幅広い見方や表現方法を学びます。ものの形をどう見るか、どのように表現していったらよいかなどを実際に素材や用具を使用して、平面表現や立体表現の基礎を学び、実際の製作体験をする。

子どもたちは様々に想像し、自由に新しいものを造り出していく。子どもたちとともに造形活動するクリエイティブな感性を育み、活かしながら、保育者としての必要な技量を体得する。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1852	図 画 工 作 II	2 年次後期	2

この授業は、図画工作 I 保育内容：造形表現、子ども造形で学んできたことを生かして、自ら応用・発展させながら創作し実際の子供の造形材料や用具を使って平面及び立体表現の感性を高めながら、指導法を学ぶ。

子どもたちは身体全体を使って美術体感を学び取っていき、自己の心情を汲み入れながら、心身ともに創り出していく活動体験をする。完成することだけでなく、製作過程そのものの意義を大切にして取り組んでほしい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1853	子 ども 造 形	2 年次前期	2

これまで図画工作 I、保育内容：造形表現を通じて美術、造形関連の基礎技能を学んできた。この授業ではさらに具体的に保育や幼児教育の実践現場で実際に使用する材料や用具を用い、保育指導案から造形製作までを学び、子どもの心と造形表現の楽しさ、作品を創り出す喜び等、保育者としての資質を伸ばし、育む。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1854	体 育 I	1 年次前期	2

幼児期は人間の最も基本となる動きが著しく発達する時期であり、運動や遊びを体験しながら基本的な動きを獲得することにより、子どもの運動能力の向上を図っていくことがますます重要であるとされています。

本講義では、遊びを展開しながら基礎的な動作を経験できるような環境設定や、運動発達ステージに応じた指導や助言の方法について理解を深め、子どもの動きを引き出し、子どもが自発的に楽しく遊ぶことができる保育技術を体得していきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1855	体 育 II	1 年次後期	2

この授業では、保育実践に必要な教材・教具の特性について理解し、扱い方を熟知するとともに、保育場面における保育者の援助・補助の仕方や環境構成のあり方について体得し、運動会の競技・演技種目の内容について創作及び振付けを行ない、新しい運動や遊びを開発したり、行事の運営や指導計画を立案したりして、実際の指導に生かしていきます。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1856	子 ども と 文 化	1 年次後期	2

「保育内容：言葉」を受けて、子どもを取り巻く文化環境がもつ意義と、具体的実践を学ぶ。幼児は、生活や遊びの中で学び自然に身につけていく。保育者は幼児の生活を豊かにし、意欲を誘い、発達を促すために、楽しく豊かな遊びの文化環境を整える必要がある。この科目は絵本やお話、紙芝居、人形劇などの、ことばの発達を促す環境分野を学び、実践する。これらの文化財は子どもたちに幸せな世界をつくり、感性を育てるものであり、保育者と子どもの心を結びつけてくれる保育実践に欠かせない分野である。

しかし、保育者が子どもと共感し合い、楽しさを共有できてこそ、子どもの心も解放され、心から楽しむことができるのである。そのために、知識、技術だけでなく、自らの芸術的な感性を磨くとともに、子どもと共感し合える柔軟な感性を、受講者みんなで協力して学び合う。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1857	国 語	2 年次後期	2

この講義では、受講者がさまざまな文章・児童文学作品にふれることで、①日本語の読解・表現能力を向上させ②児童文学史に関する基礎的知識を獲得する、という二つの目的を持っています。授業の中で具体的に取り組む内容は以下の3点です。

- 1、日本語の基礎知識、文章作成時の基礎的ルール等を学びます。また、熟語、同音異義語、故事成語等を学び、自らの読み書きに使用できる語彙を増やしていきます。
- 2、世界各地の童話・児童文学等について、歴史的視点を含めて学びます。
- 3、日本の童話・児童文学等について、歴史的視点を含めて学びます。

これらを学ぶことで、こどもたちに言語・文化を伝えていくための基礎的な能力を身につけることを目指します。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1858	レクリエーション指導	1 年次前期 (集中)	2

レクリエーションを学ぶ目的は、「人生を楽しく、有意義に、より人間らしく生きる」という理念を、人と人との交流の中で体験することにより自分自身を成長させていくことです。

この授業では「保育に生かすトーク・マジック」を中心に、「切り紙遊び」、「バルーン遊び」などの実技を通して、その技術を習得するとともに、言葉と身体の実現力を豊かにし、創意工夫の能力を養います。

この授業で習ったことは、将来、保育の場で必ず生かされると確信しています。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1859	レクリエーション実習	1 年次後期 2 年次前・後(集中)	1

レクリエーション活動を通して、地域社会の人々の交流を盛んにし、仲間作りを促進させることは大変意義のあることです。授業で学んだ理論と実技をこのような社会の場で還元することは、自分自身を成長させるとともに、人々の心を豊かなものにします。

レクリエーション協会主催の事業、地域の子供会活動、高齢者やハンディのある人々への福祉ボランティア活動などに積極的に参加するリーダーの育成を目指します。

◆単位認定のためには、1、2 年次中に、各自が学外で現場実習を行う必要があります。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1860	保 育 実 習 I	1 年次後期(集中)	4
H1861	保 育 実 習 指 導 I	1 年次後期 2 年次前期	2

保育実習 I は、保育所における実習（保育所実習 2 単位）と保育所以外の児童福祉施設実習（施設実習 2 単位）によって構成される。保育所実習も施設実習も机上の学習で得た知識や技術を深め、保育士としての使命感や力量を高める場である。園児や入所者の生活・行動あるいは実際の保育、保育者の役割や職務内容をより深く、具体的に習得すると同時に、保育所や施設の指導システムや社会的機能について把握する機会である。1 年次の春休みに居住型施設（乳児院、児童養護施設、障害児入所施設等）で 1 週間宿泊実習または通所型施設（児童発達支援センター、障害者支援施設等）で 10 日間の実習を行う。1 年次の 1 月には、保育所で通園 10 日間の保育所実習を行う。実習の事前指導は、保育実習の意義、目的、実施内容、実習の心得、実習記録のとり方、指導案の作成等実習に必要な知識を学ぶ。実習事後指導は、実習体験で学んだ自己課題を再整理し、今後の学習・研究の方向性を見つける取り組みである。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1862	保 育 実 習 II	2 年次前期(集中)	2
H1863	保 育 実 習 指 導 II	2 年次前期	1

保育実習Ⅱは、2年次の6月に約10日間行う。保育実習Ⅰでは、実際の乳幼児とのかかわって生活に参加する中で、子どもの発達や保育者の役割と保育所の機能を学んだ。

保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰで学んだ基礎知識を更に深く、専門的な知識や技能を修得することを目的としている。

具体的には、日案を作成し、それを基に半日(半日実習)または1日(一日実習)の保育を実際に運営させてもらい、保育者としての自覚と責任を身につける。

また、保護者との提携や地域の子育て支援など、保育所の社会的機能について理解を深めることも重要である。

このように保育実習Ⅱは、保育者としての資質を高める貴重な機会である。そのためには積極的な実習態度が必要である。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1864	保 育 実 習 III	2 年次前期(集中)	2
H1865	保 育 実 習 指 導 III	2 年次前期	1

保育実習Ⅲでは、保育実習Ⅰで行った施設実習を更に深く専門的に学ぶ実習である。ここでは、保育所以外の児童福祉施設が実習施設となる。

この実習では、地域支援などで地域に根ざした居住型の施設と通園施設とを活用することによって、地域ネットワークのあり方を詳しく学ぶが、ねらいは次のとおりである。

1. 子どもを一步高めるための見通しをもった援助法を学ぶ。
2. 子どもを生き生きとさせ、活発にさせるような援助技術をより確かなものにする。
3. 自分の将来の生き方を考え、施設における保育観をより深めるために、実習生各自に即した実習課題を設定し、より積極的に掘り下げる。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1866	教 育 実 習	1 年次前期(集中) 2 年次前期(集中)	4
H1867	教 育 実 習 指 導	1 年次前期 2 年次前期・後期	1

大学での学修によって得た知識や技術等を、実際の教育現場で具体的な体験を通して学習し、今後の幼児教育の学習に理解を深める機会を得るのが教育実習である。1年次に本学の付属幼稚園で1週間、さらに2年次の9月に地元の幼稚園で3週間実習を行う。

教育実習指導では、教育実習の意義・目的・内容（見学実習、観察実習、参加実習の各段階の記録のとり方、日誌の書き方など）について学ぶ。

実習後に、実習体験で学んだ自己課題を再整理し、今後の学習・研究の方向性を見つける取り組みを行う。

以上の取り組みを通して、子どもとのふれあう機会を持ち、保育者の助言・援助・指導など子どもへのかかわり方を学生たちには学んでほしい。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1868	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)	2 年次後期	2

環境、少子高齢社会および女性の社会進出等による教育・保育に関する現代的課題の中から特に問題と思われるものを自発的に見出し、そうした問題の特質に関する分析や検討を、ディスカッションやリサーチ活動を通して行い、問題解決のための対応を探究する。その際、これまで受講してきた授業科目の知見を積極的に援用することを念頭に置きながら、科目横断的な学習能力の習得を目指す。そして、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認し評価することで、学生のさらなる学びへの動機づけを促す。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1869	現 代 幼 児 演 習	1 年次後期	1

基礎セミナーで学んだ読む力、書く力をさらに発展向上させ、保育をめぐる問題に対する論点の整理や問題の解決方法を、討論を通して学ぶ。また、子ども向けの企画を運営することで、他者との共同作業を通じたチームワークの大切さを学ぶ。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1870	幼 児 保 育 研 究	2 年次前期	1

子どもの感性と創造性を涵養する上で保育者に求められる資質や保育の問題を視野に入れ、文献学習、調査、体験学習、教材研究、討論、発表などの学習方法を通して保育のあり方をより深く学ぶ。そして、それを発展させて子どもの発達を支える実践力やコミュニケーション力、自己表現力なども身につける。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1871	こ ども ま つ り	2 年次後期	1

2 年間の学びの集大成として、いろいろな科目を通して習得した知識や技術を統合し、それらを「こどもまつり」という形で、地域の子どもたちの前で発表する。「こどもまつり」は、地域社会に根づいた大学として、保育を学んだ学生が、地域の子育ての文化に貢献することをめざしている。

この授業は、学生一人ひとりが主体的に仲間と協働し、創造する取り組みである。こうした活動を通して、保育現場で求められる行事の企画、運営能力や対人関係能力などの実践能力を養う。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1872	子 育 て 支 援 イ ン タ ー ン シ ッ プ I	1 年次前期	1

保育者にとって実践力は重要である。保育者にとって子育て支援の技術は重要な力であり、その力は現場に出て実践し失敗を繰り返す中で高められる。この授業では、本学の持つ 3 つの施設、愛知江南短期大学付属幼稚園、指定管理江南市立古知野西保育園、子育て支援センター（こ～たん）において、保育実践を行い、実践力を身につけることを目的とする。授業の構成は 2 つのパートに分かれている。前半は、実習や現場でのマナーや態度および基本的な実践の仕方について座学で学ぶ。後半は、上記の 3 つの施設で保育実践のための準備・計画、練習、反省会を行う。なお、この授業は、受講者を任意のグループに分け実施する。前期の子育て支援インターンシップ I では主に、手遊び・絵本読み・紙芝居読みを中心とした保育実践を展開する。

科目番号	授 業 科 目 名	開 講 期	単 位
H1873	子 育 て 支 援 インターンシップⅡ	1年次後期	1

保育者にとって実践力は重要である。保育者にとって子育て支援の技術は重要な力であり、その力は現場に出て実践し失敗を繰り返す中で高められる。この授業では、本学の持つ3つの施設、愛知江南短期大学付属幼稚園、指定管理江南市立古知野西保育園、子育て支援センター（こ～たん）において、保育実践を行い、実践力を身につけることを目的とする。前期の子育て支援インターンシップでは、基本的な保育実践を展開したが、本授業ではより高度な保育技術の習得を目指す。

子育て支援インターンシップⅡでは主に、ペープサート、エプロンシアター、素話、集団遊びについて中心に実践力を高める。なお、この授業は、受講者を任意のグループに分け実施する。